

<空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！>

2022.8.5

JAL闘争を支える京都の会News No.86

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX: 075-531-3856 E-mail: komai123@kfa.biglobe.ne.jp

JALの業務委託契約による 解決は受けられない！

7月26日、165名を解雇したJAL稻盛和夫会長（当時：現在JAL名誉顧問）の地元の大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ「ユニオンネットワーク京都」に結集する皆さん、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」「9条ネット・滋賀」「合同纖維労組」の皆さんなど、15名に参加していただきました。JHU（JAL被解雇者労働組合）からは副委員長の神瀬麻里子さんに参加していただきました。

最初に駒井高之・京都の会事務局長は以下のように訴えました。「7月13日、CCU（キャビンクルーユニオン）は日本航空との間で『争議終結の合意書』の締結』をした。乗員組合も7月22日の臨時組合大会決議を受け、『整理解雇問題解決に関する協定書及び覚書』を締結し、2010年整理解雇問題について終結することが確認され、両労組の11年7カ月に及ぶ闘いに終止符が打たれた。両組合が評価した『業務委託契約による職務の提供』という会社回答は、『雇用によらない働き方』である。いま政府財界は『働き方改革』の名で、雇用によらない働き方、つまり労働関連の法律が適用されない、使用者が責任を負わない働き方をさらに進めようとしている。今回の会社回答は、不正に解雇され雇用契約を一方的に破棄された被解雇者に対して真の働く権利の回復と言えないだけでなく、全ての労働者にとっても『雇用によらない働き方』の拡大に繋がる大きな問題を抱えている。業務委託による解決は受けられない。」

次に神瀬さんは以下のように訴えました。

「JAL日本航空は4年前から、『この問題は早期に解決したいと毎日そのように考えている。』と社長が発言しているのに関わらず、まだ解決していない。6月23日、既存の2労組に会社が解決案なるものを提示し、同じものがJHUに示されたのは7月8日であった。その中身は大変問題がある。これが解決策であるとはとても思えない。私たちが求



めてきたのは原職復帰と金銭解決である。今回 J A L が解雇問題の解決として我々被解雇者に提示してきたのは、月に 1 2 万 5 千円の報酬で 2 年働けますよ、という内容である。中身は『雇用関係のない業務委託契約』で、それを解決案とすると言うのはとんでもない話である。しかし既存の労働組合は 7 月 1 3 日と 2 2 日にその中身をOKであると合意をしてしまった。労働組合は会社が合意書の中で労使の信頼関係の正常化に努力すると言っていることを評価しているが、J A L は過去に何度もその約束をしている。言葉だけで合意をしてしまうことが私は本当に残念でならない。そして我々の本来の要求である原職復帰と金銭解決を求めて闘いを続けていけるのは J H U ・ J A L 被解雇者労働組合があるおかげ、そしてここ京都で支援をしてくださる皆さんのおかげである。そんなものに合意をしてしまったら日本中の働く仲間の足をひっぱることになる。私たちは毅然としてこの会社のやり方と闘っていくつもりである。さて、J A L の不当解雇撤回運動は安全を取り戻す闘いである。4 月に起きた遊覧船事故を見てもわかるように、安全より利益を優先するような今の J A L のやり方、そして知床の遊覧船会社のやり方では利用者の命を守ることはできない。J A L 1 2 3 便御巣鷹山墜落事故が起きた後、J A L は絶対安全の確立を誓った。その時に誓ったことは絶対安全の他に 3 つある。労使関係の安定化と融和、そして公正明朗な人事、そして 3 つ目が現場第一主義である。この 4 つを守っていたら 2 0 1 0 年の経営破綻は起こらなかっただけである。解雇もしなくて良かったはずである。約束をしては破るこの J A L の体質を変えなければならない。そのためには私たちはここ伏見の皆さんにご協力をいただきたいと思う。私たちを解雇したのは稻盛和夫さんである。稻盛和夫さんはこの 1 月に 9 0 才になられたそうだが、お元気なうちにこの解雇問題の解決に力を貸してほしい。」



きょうとユニオンの K さんは「私の住んでいる地域では一人親方、一人事業主と言う方が多い。そういう人たちはどういう生活をしているのか。たとえば一人親方というのは労働者であるにもかかわらず、事業主という位置づけで自分のことは自分でしないということである。先ほど J H U の方が言われたが、J A L は最低賃金以下の契約でもって、あなた方は自分でやりなさいという、こんなふざけた解決方法をとった。それは非常に問題がある。こういうことが蔓延していくと、我々の生活そのものにも跳ね返ってくる。」と述べました。

大手筋商店街を通る方はいつも通り関心が高く、あちこちでビラを受け取り対話を始めました。

次回 宣伝行動

(呼びかけ J A L 闘争を支える京都の会)

8 月 3 0 日 (火)

午後 2 時～3 時 伏見・大手筋商店街